

平成 30 年度 関東森林管理局保護林管理委員会（モニタリング調査検討）  
議 事 概 要

1 日時及び場所

平成 31 年 2 月 6 日（水曜日）13:15～15:30

関東森林管理局 5 階中会議室（群馬県前橋市）

2 議題

- (1) 平成 30 年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価について
- (2) 平成 30 年度緑の回廊モニタリング調査結果及び現状評価について
- (3) 平成 31 年度モニタリング調査について
- (4) その他（報告事項）

3 議事概要

(1) 平成 30 年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価について

保護林のモニタリング調査結果について、現状と課題を説明し、保護林の評価について委員より意見を伺った。（資料 2）

（主な意見）

【深沢ヒノキアスナロ希少個体群保護林について】

- ・ テングス病の被害木にマーキングすることで、被害の増減を把握できるのではないかと。
- ・ 対策というよりも、まずは拡大状況にあるのか、平衡状況にあるのか、増減の把握が大切である。
- ・ 群馬、長野ではテングス病となった枝の上にクマタカが営巣することがある。蔓延すると問題であるが、存在することは問題ないと感じている。

【上野檜原シオジ等生物群集保護林について】

- ・ シオジの更新方法は他の樹木と異なるため、それを踏まえて評価するとよい。
- ・ 当保護林は全域が鳥獣保護区に指定されているため、シカの捕獲が進まないエリアであると思われる。県にシカの捕獲を許可してもらえると良いのではないかと。

【元清澄山ツガ・ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林、南房総モミ希少個体群保護林について】

- ・ 特定外来種であるキョンの生息が認められるのであれば排除すべきであり、生態系の管理という観点からも外来種の管理は重要である。

【ニホンジカの影響、対策について】

- ・ シカ被害の程度については林床植生の植被率のみではなく、忌避植物の増減など、組成的な変化も比較、評価するとよい。
- ・ シカの影響が軽微であるが確認される地域では、下層植生の現状（特にスズタケの有無）、

シカの分布拡大のスピード、温暖化を考慮すると、調査間隔 10 年は長い。5 年に一度は定期的な巡視を実施していただきたい。

**【その他】**

- ・低木群落についてはできれば群落の広がりや種類を明記しておくが良い。低木群落の植物を餌等に利用している種（ライチョウ等）の分布との関係性を考察できる。低木群落の分布の変化を把握することが重要である。

**(2) 平成 30 年度緑の回廊モニタリング調査結果及び現状評価について**

緑の回廊のモニタリング調査結果について、現状と課題を説明し、緑の回廊の評価について委員より意見を伺った。（資料 3）

**(主な意見)**

- ・下層植生の生育状況について、森林生態系多様性基礎調査の出現種数や植被率だけでなく、特徴がわかるようなリアリティーのある記載になるとよい。

**(3) 平成 31 年度モニタリング調査について**

平成 31 年度モニタリング実施予定箇所及び調査内容について説明を行った。（資料 4）

**(4) その他（報告事項）**

昨年度のモニタリング調査で追加調査が必要とされた「竜頭の滝カラマツ遺伝資源希少個体群保護林」及び「瀬尻ホソバシャクナゲ希少個体群保護林」について、調査結果を報告した。（資料 5）

また、保護林への影響も危惧されているニホンジカについて、関東森林管理局で行っているニホンジカ対策の取り組みを紹介した。（参考資料\_関東森林管理局におけるシカ被害対策の取組について）

**(主な意見)**

- ・ホソバシャクナゲの環境改善のような、ある特定の種を保全する事業は、どのように対象種を選定し、限られた予算とマンパワーを分配し、事業を組むのか。埋もれているものを発見できる仕組み作りが必要である。
- ・シカの捕獲数は今後、増えると考えられるが、その捕獲頭数が有効に機能しているのか、全体の何割を捕獲したのか評価できるように、まずは生息頭数を推定すべきである。